

# 令和3年度私立高校新入生の保護者を対象とした 高校選択満足度調査の結果について

令和4年3月  
大阪府教育庁私学課

大阪府では、子どもたちが、中学校卒業時の進路選択段階で、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を保障することを目的に、平成23年度の新1年生から、私立高校の授業料無償化制度（私立高等学校等授業料支援補助金）を実施しています。

この無償化制度の効果検証の一環として、令和3年4月に入学した私立高校生の保護者を対象として、高校選択に関する満足度調査を令和3年11月から令和4年1月に実施しました。

本調査は、平成23年度以降の新入生に対し、毎年度実施しており、今年度で11回目の実施となります。

## 【調査結果の概要】

- **在籍校に対する満足度は、「全体を通して満足している」という肯定的な意見が76.2%であった。**

在籍校に対する満足度は、「学習指導面」「施設・設備面」に関して満足しているという肯定的な意見が7割を超えたほか、「教員」「生活指導面」「進路指導面」「特色ある教育活動」においても肯定的な意見が6割を超えた。「全体を通して」では、**76.2%（R2:75.0%、R1:75.9%）**が肯定的な意見であった。

- **「授業料無償化制度があったから、私立高校への進学を選択した」とする割合は、年収590万円未満世帯で78.1%であった。**

授業料無償化制度があったから私立高校への進学を選択したとする大阪府に在住している保護者の割合は、世帯の年収で区分して見ると、年収800万円未満世帯では**73.8%（R2:73.6%、R1:73.2%）**、年収590万円未満世帯では**78.1%（R2:79.3%、R1:77.3%）**であった。

- **入学した私立高校を選んだ理由は、「施設設備が充実していること」が70.3%で、最も多かった。**

入学した私立高校を選んだ理由については、「施設設備が充実していること（70.3%）」（R2:66.2%、R1:65.2%）が最も多く、次いで「進路指導に実績があること（70.2%）」（R2:66.4%、R1:65.1%）となっている。

- **私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、10万円（月1万円程度）が妥当と考える割合が最も多く、全体の24.2%であった。**

私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）として妥当と考える金額として、全体で最も割合が多かったのは「10万円（月1万円程度）」が**24.2%**であった。世帯の年収で区分して見ると、年収800万円未満世帯では「10万円（月1万円程度）」が**26.7%**、年収590万円未満世帯でも**26.7%**となっており、いずれの所得区分で見ても最も多かった。

## 【満足度調査について】

### 1 目的

令和3年4月に入学した私立高校生の保護者を対象として、学校等に対する満足度、授業料無償化制度の認知状況や進路選択に与えた影響などの調査を実施し、授業料無償化制度の効果を検証するとともに、今後の施策検討の参考とする。

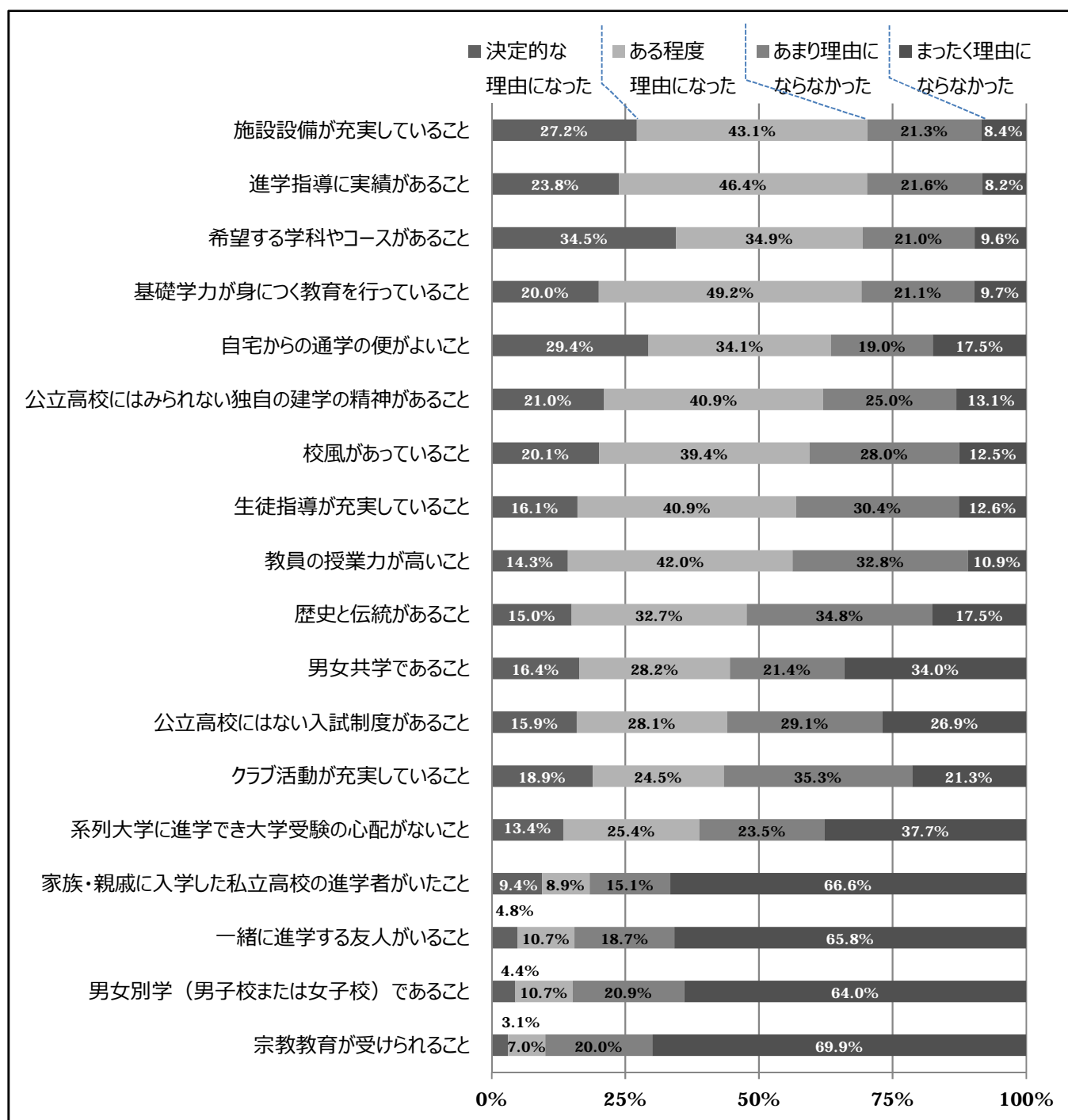
### 2 対象

令和3年4月に府内の全日制私立高校（93校）に入学した高校1年生のうち、各校が選定したクラスに属する生徒の保護者 **3,750人（R2: 3,694人、R1:3,256人）**

### 3 実施方法

令和3年11月に府内の私立高校へ調査用紙を配布し、各学校において調査対象クラスを選定の上、対象生徒を通じて保護者に調査用紙を配布。2月1日までに**3,364人（R2:3,440人、R1:2,984人）**の保護者から回答を得た。

問1 入学された私立高校を選ばれた理由についてお聞きます。

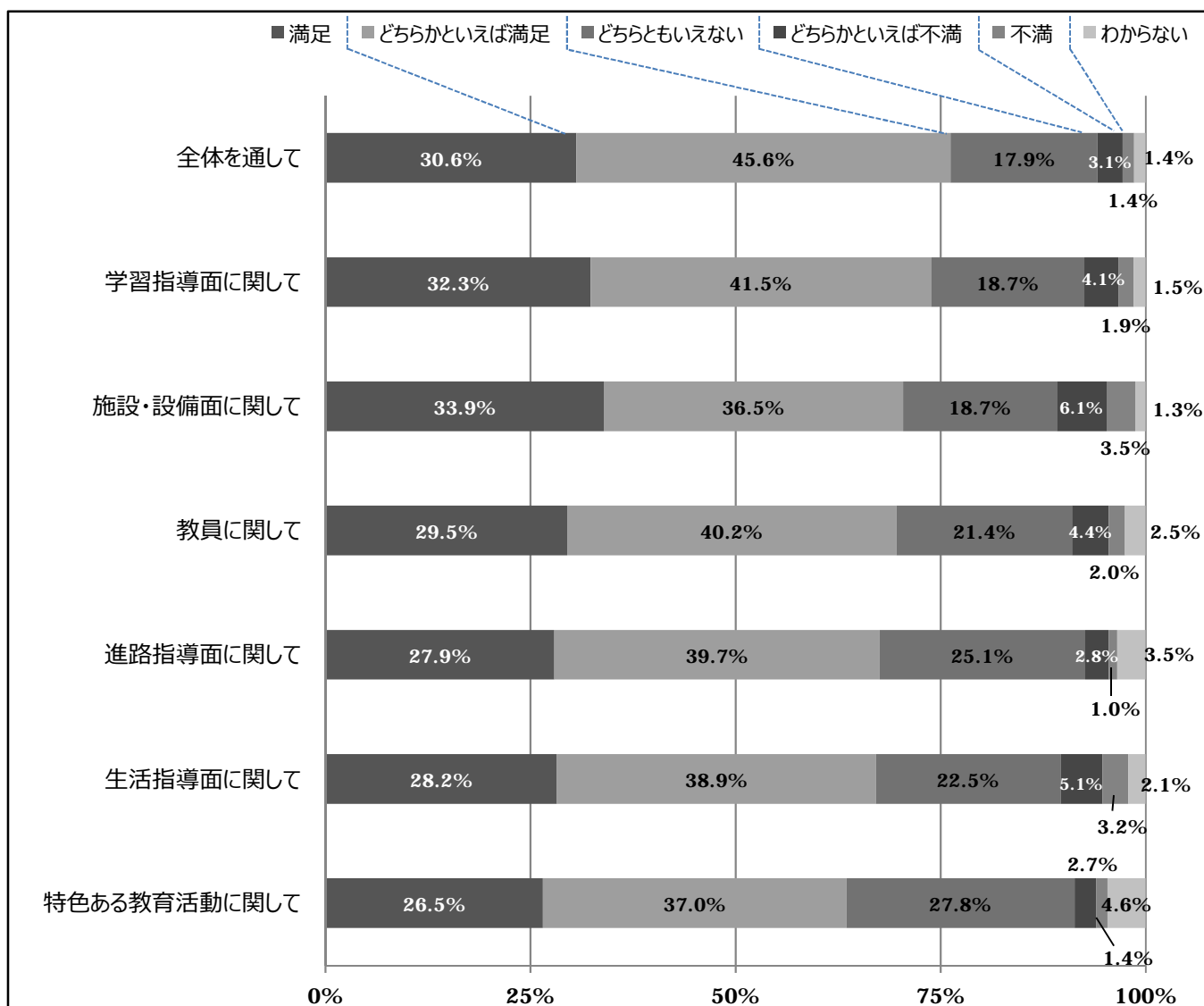


○ 入学した私立高校を選んだ理由は、「施設設備が充実していること」が70.3%と最も多い

※令和2年度調査：「進学指導に実績があること（66.4%）」が最も多かった

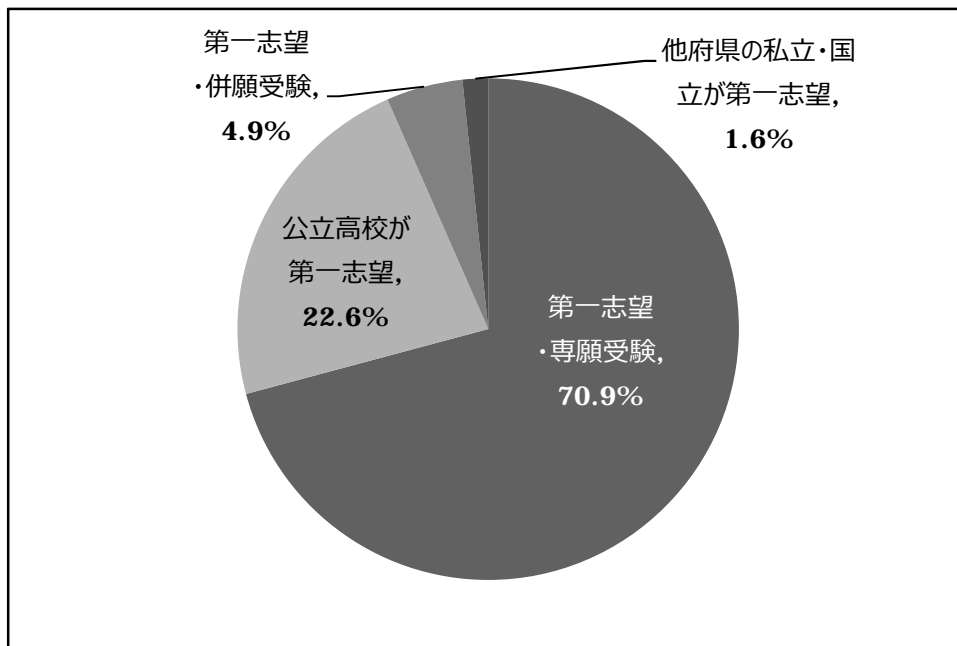
- 入学した私立高校を選んだ理由について項目を示して聞いたところ、「決定的な理由になった」と「ある程度理由になった」を合わせた肯定的な意見としては、「施設設備が充実していること（70.3%）」（R2:66.2%、R1:65.2%）が最も多く、次いで「進学指導に実績があること（70.2%）」（R2:66.4%、R1:65.1%）、「希望する学科やコースがあること（69.4%）」（R2:65.7%、R1:66.3%）となっている。
- 「あまり理由にならなかった」と「まったく理由にならなかった」を合わせた否定的な意見としては、「宗教教育が受けられること（89.9%）」（R2:91.9%、R1:90.7%）が最も多く、次いで「男女別学（男子校または女子高）であること（84.9%）」（R2:85.1%、R1:84.3%）となっている。

## 問2 入学された私立高校に満足していますか。



- 入学した私立高校に対する満足度は、「全体を通して満足している」という肯定的な意見が **76.2%**となっている  
※令和2年度調査：75.0%
- 入学した私立高校に対する満足度について聞いたところ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた肯定的な意見としては、「全体を通して（76.2%）」（R2:75.0%、R1:75.9%）が最も多く、次いで、「学習指導面に関して（73.8%）」（R2:71.9%、R1:72.8%）、「施設・設備面に関して（70.4%）」（R2:70.1% R1:70.9%）であり、ともに7割を超えている。
- 「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「施設・設備面に関して（9.6%）」（R2:10.3%、R1:9.8%）であり、約1割となっている。

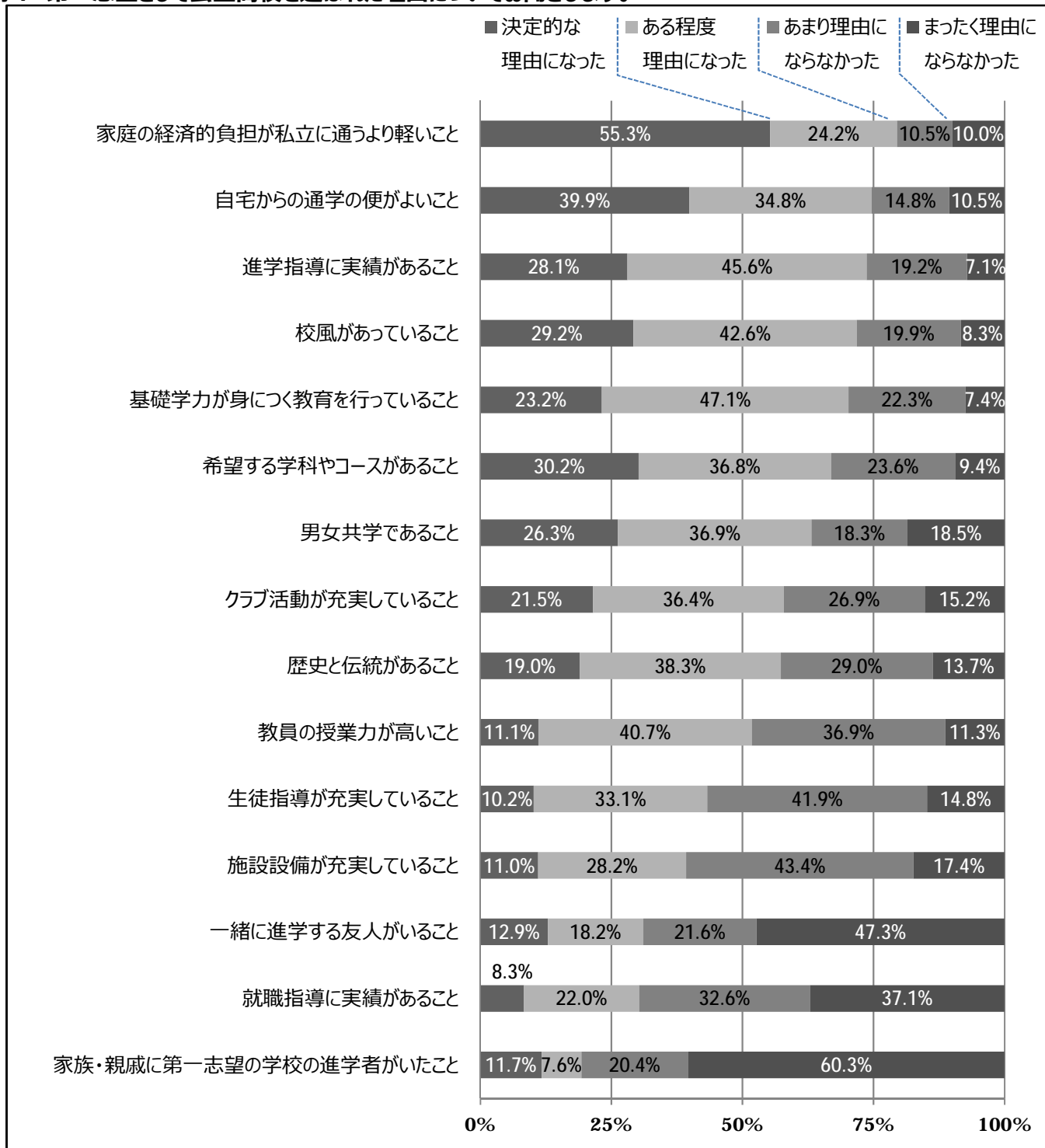
問3 入学された私立高校はお子様の第一志望でしたか。



○ 70.9%の生徒が、在籍校が第一志望であったので、専願受験により入学したとしている

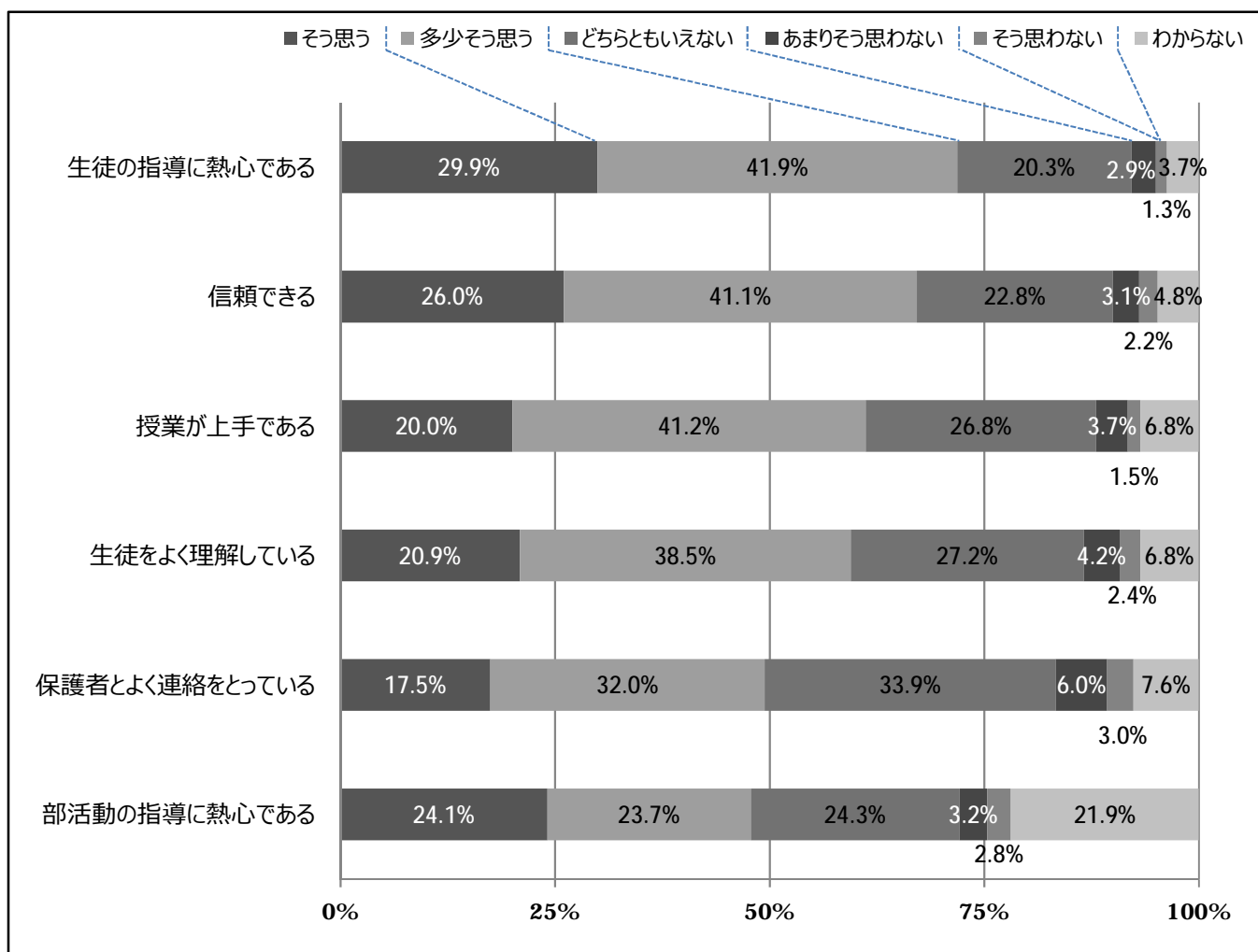
- 入学した私立高校が第一志望であったかどうかを聞いたところ、「第一志望であったので、当該校を専願受験した（70.9%）」（R2:69.8%、R1:66.6%）が最も多かった。また、「第一志望であったが、当該校を併願受験した（4.9%）」（R2:5.3%、R1:5.2%）も少なからずあった。
- 「公立高校が第一志望であったが、当該校を併願受験した（22.6%）」（R2:23.4%、R1:26.8%）は約2割となっており、昨年度に比べ0.8ポイント減った。

問4 第一志望として公立高校を選ばれた理由についてお聞きます。



- **公立高校を第一志望に選んだ理由は、「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと」が79.5%と最も多い**  
 ※令和2年度調査：「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと（85.2%）」が最も多かった
- ・ 公立高校を第一志望に選んだ理由について項目を示して聞いたところ、「決定的な理由になった」と「ある程度理由になった」を合わせた肯定的な意見としては、「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと（79.5%）」（R2:85.2%、R1:81.7%）が最も多く、次いで、「自宅からの通学の便がよいこと（74.7%）」（R2:75.5%、R1:72.5%）、「進学指導に実績があること（73.7%）」（R2:71.7%、R1:69.8%）の順となっている。
- ・ 「あまり理由にならなかった」と「まったく理由にならなかった」を合わせた否定的な意見としては、「家族・親戚に第一志望の学校の進学者がいたこと（80.7%）」（R2:80.2%、R1:81.1%）が最も多く、次いで「就職指導に実績があること（69.7%）」（R2:77.7%、R1:76.8%）となっている。

問5 学校の先生について、お聞きします。

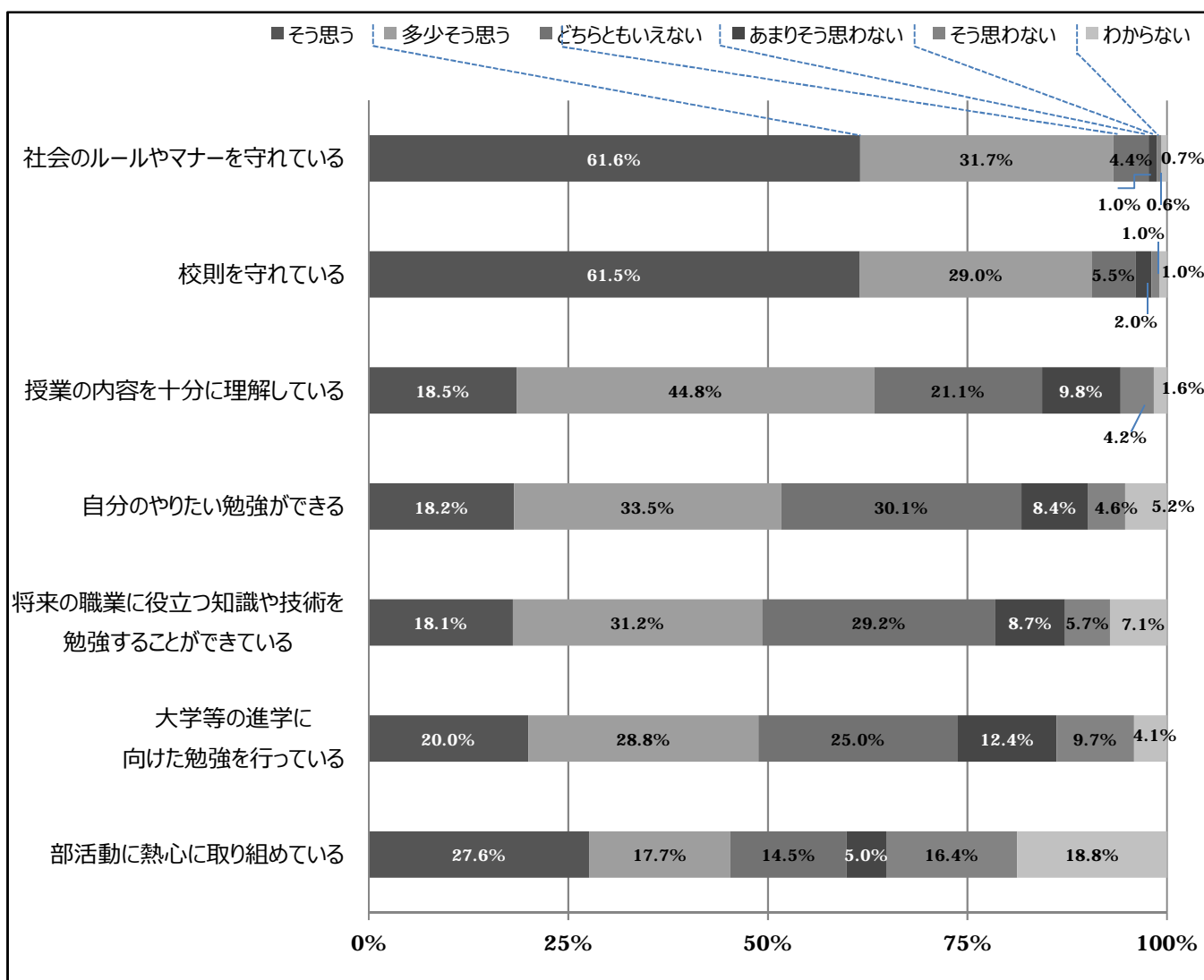


○ 学校の先生については、「生徒の指導に熱心である」が 71.8%と最も多くなっている

※令和2年度調査：「生徒の指導に熱心である（70.4%）」が最も多かった

- 学校の先生について聞いたところ、「そう思う」と「多少そう思う」を合わせた肯定的な意見としては、「生徒の指導に熱心である（71.8%）」（R2:70.4%、R1:71.9%）が最も多く、次いで「信頼できる（67.1%）」（R2:62.2%、R1:68.7%）及び「授業が上手である（61.2%）」（R2:58.0%、R1:56.7%）が約6割となっている。
- 「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「保護者とよく連絡をとっている（9.0%）」（R2:7.7%、R1:15.9%）であった。

問6 お子様の現在の高校生活について、お聞きます。

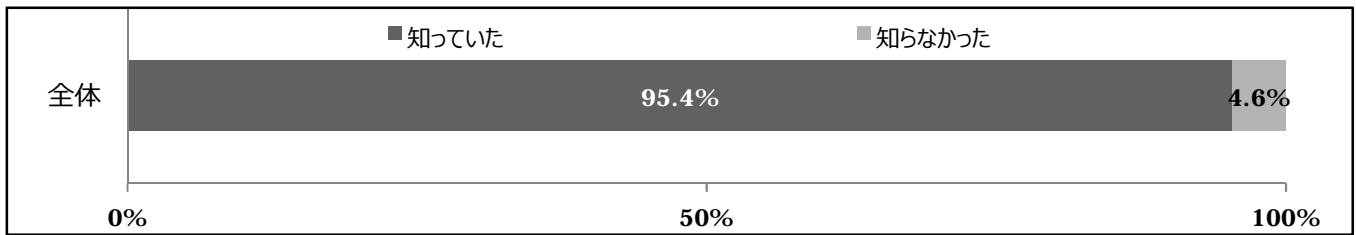


○ 現在の高校生活については、「社会的ルールやマナーが守られている」が 93.3%と最も多く、次いで「校則を守れている」が 90.5%となっている

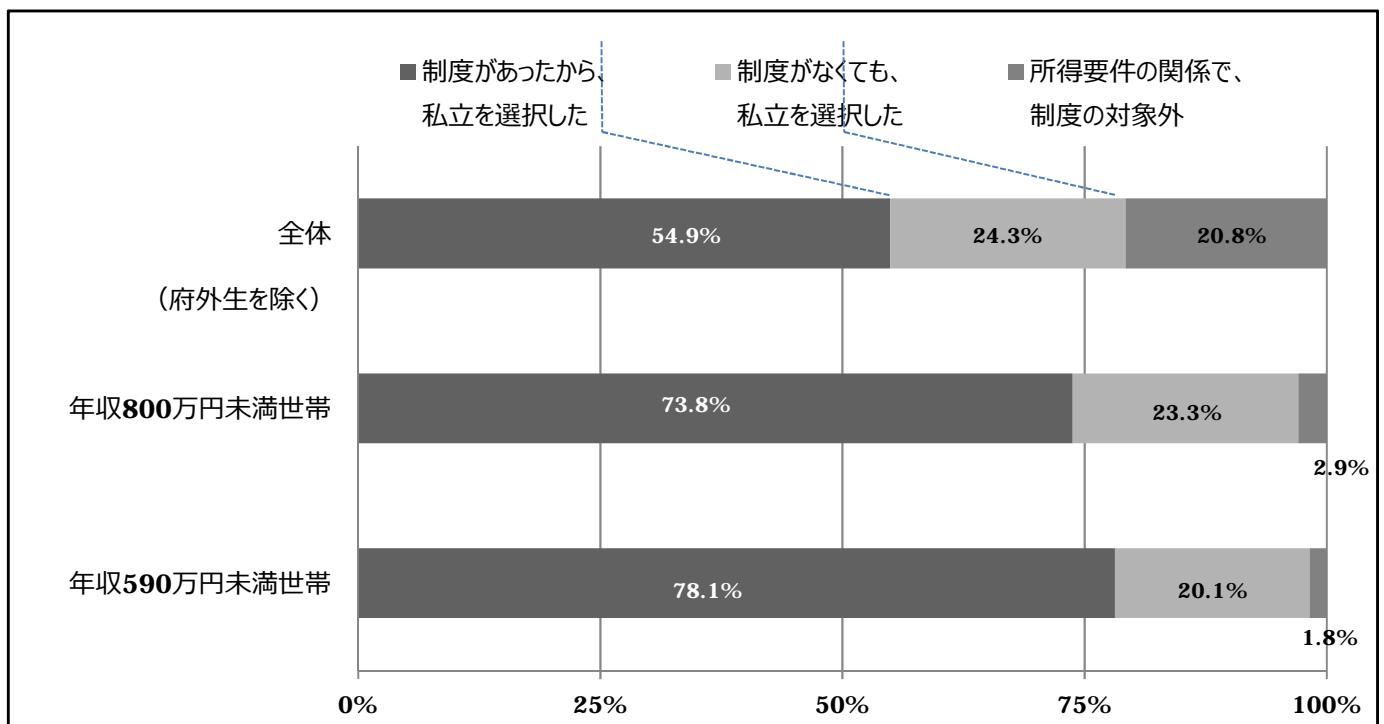
※令和2年度調査：「社会的ルールやマナーが守られている（94.3%）」が最も多かった

- 現在の高校生活について聞いたところ、「そう思う」と「多少そう思う」を合わせた肯定的な意見としては、「社会的ルールやマナーが守られている（93.3%）」（R2:94.3%、R1:90.6%）が最も多く、次いで「校則を守れている（90.5%）」（R2:92.1%、R1:88.9%）が9割を超え、「授業の内容を十分に理解している（63.3%）」（R2:61.4%、R1:58.3%）が約6割、「自分のやりたい勉強ができる（51.7%）」（R2:49.7%、R1:48.8%）が約5割となっている。
- 「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「大学等の進学に向けた勉強を行っている（22.1%）」（R2:22.2%、R1:23.7%）であり、2割を超えている。

**問7 お子様を私立高校に通わせるにあたって、大阪府の授業料無償化制度（授業料支援補助金）のことを知っていましたか。**



**問8 授業料無償化制度（授業料支援補助金）があったから、私立高校への進学を選択しましたか。**

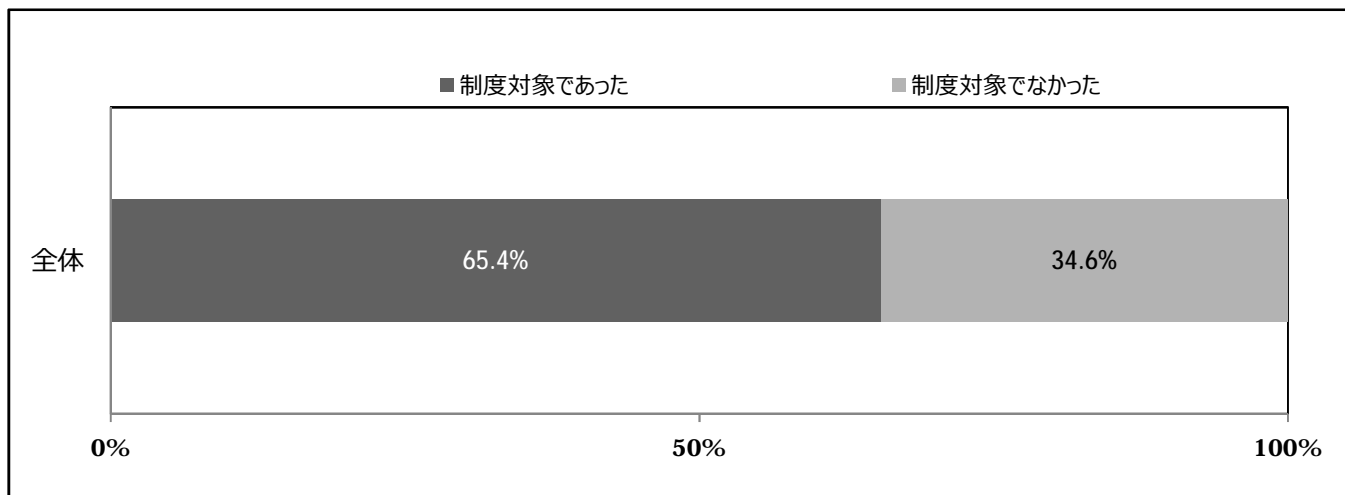


○ 大阪府の「授業料支援補助金制度」を知っていた割合は 95.4% (R2:94.0%)。また、大阪府に在住している保護者のうち、「制度があったから、私立高校への進学を選択した」とする割合は、年収590万円未満世帯で 78.1% (R2:79.3%) となっている

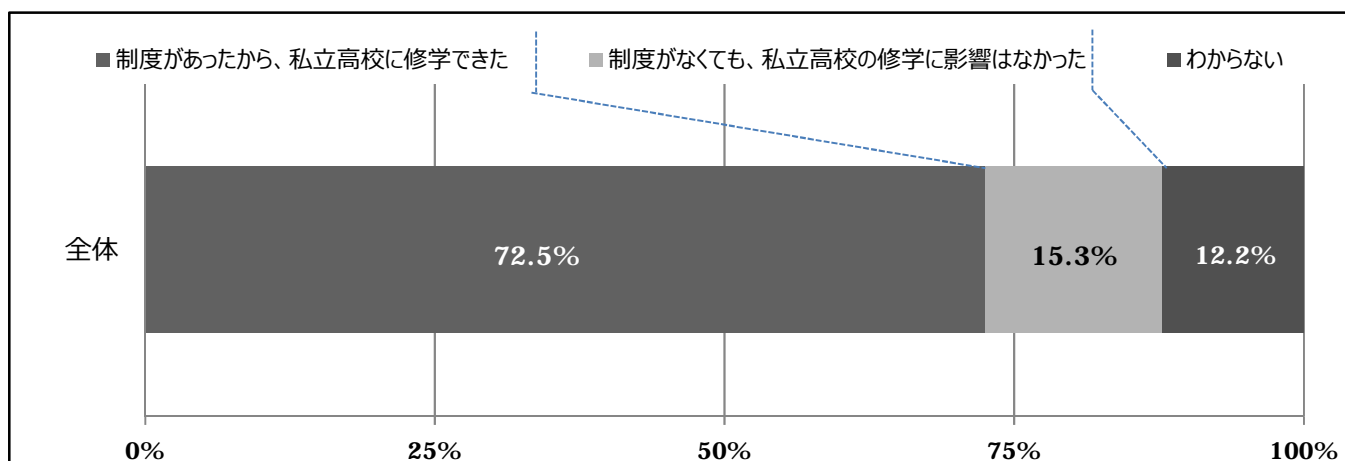
- 大阪府の「授業料支援補助金制度」を知っていたかを聞いたところ、「知っていた (95.4%)」 (R2:94.0%、R1:94.4%) は 9 割以上、「知らなかった (4.6%)」 (R2:6.0%、R1:5.6%) は 1 割未満となっている。
- また、この制度があったから私立高校への進学を選択したかを聞いたところ、大阪府に在住している保護者全体では、「制度があったから、私立高校への進学を選択した (54.9%)」 (R2:55.0%、R1:54.6%) が 5 割以上となっており、「制度がなくても、私立高校への進学を選択した (24.3%)」 (R2:25.3%、R1:20.8%) は、2 割を超えている。
- これを世帯の年収で区分して見た場合、「制度があったから、私立高校への進学を選択した」とする割合は、年収800万円未満世帯では 73.8% (R2:73.6%、R1:73.2%)、年収590万円未満世帯では 78.1% (R2:79.3%、R1:77.3%) となっており、世帯年収が低くなるほど、割合が高くなっている。



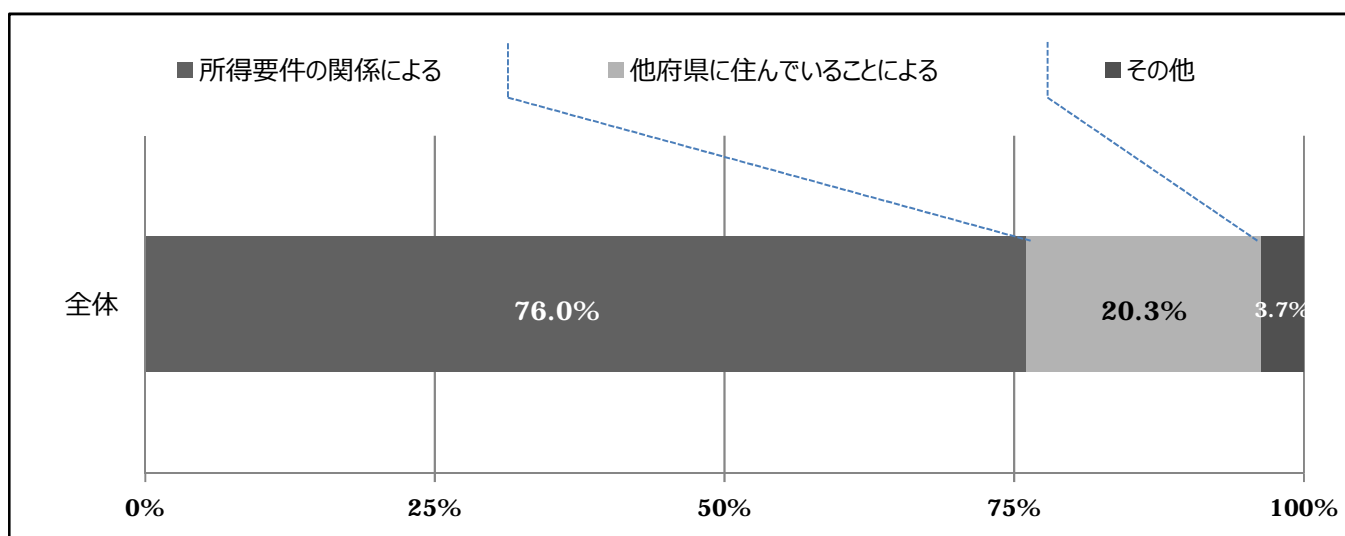
問9-1 あなたは授業料無償化制度（授業料支援補助金制度）の対象でしたか。



問9-2 問9-1で「制度対象であった」とお答えいただいた方について授業料無償化制度により、私立高校の修学にどのような影響がありましたか。

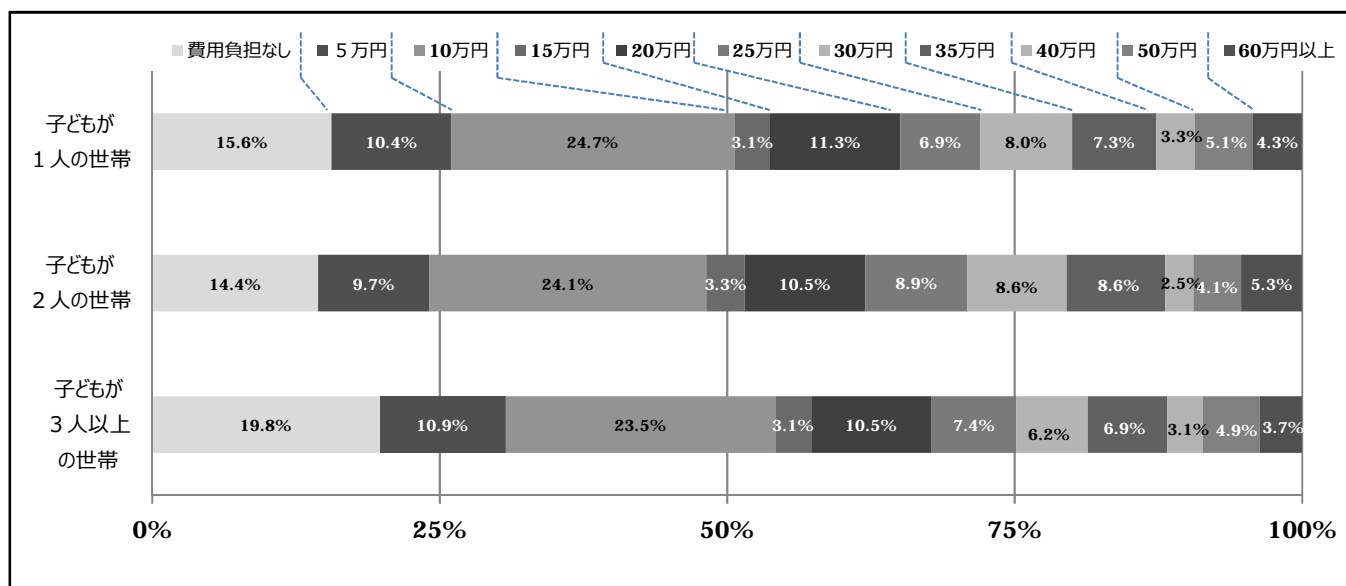
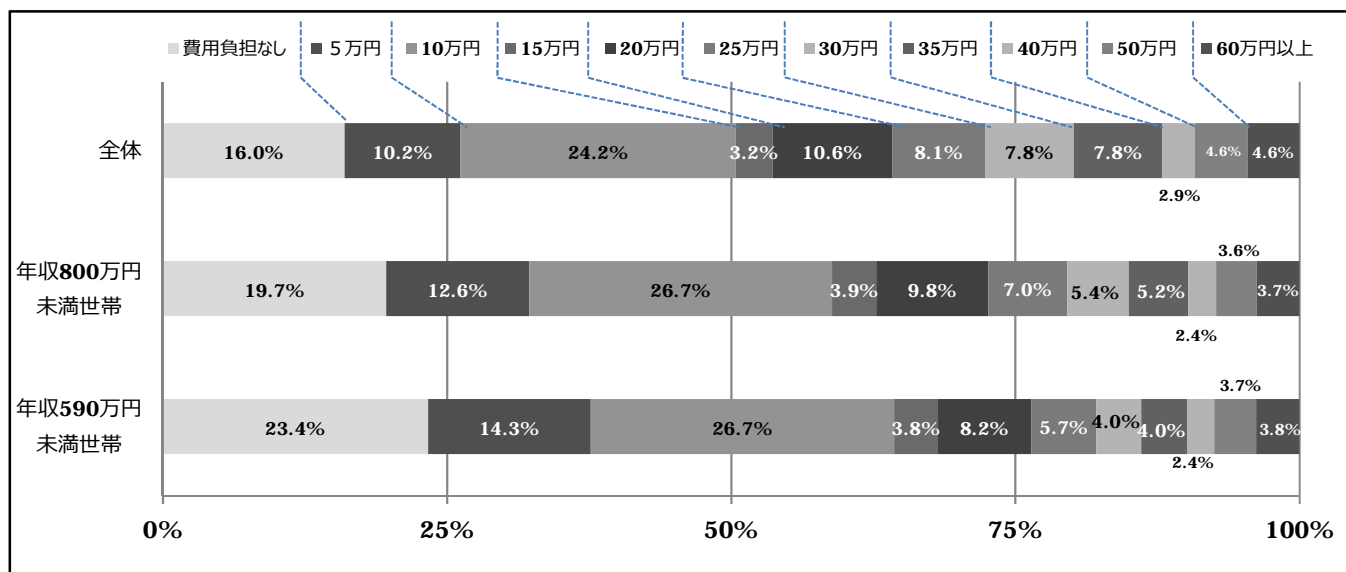


問9-3 問9-1で「制度対象でなかった」とお答えいただいた方について授業料無償化制度の対象にならなかった理由は何ですか。



**問10 私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、どの程度が妥当とお考えですか。**

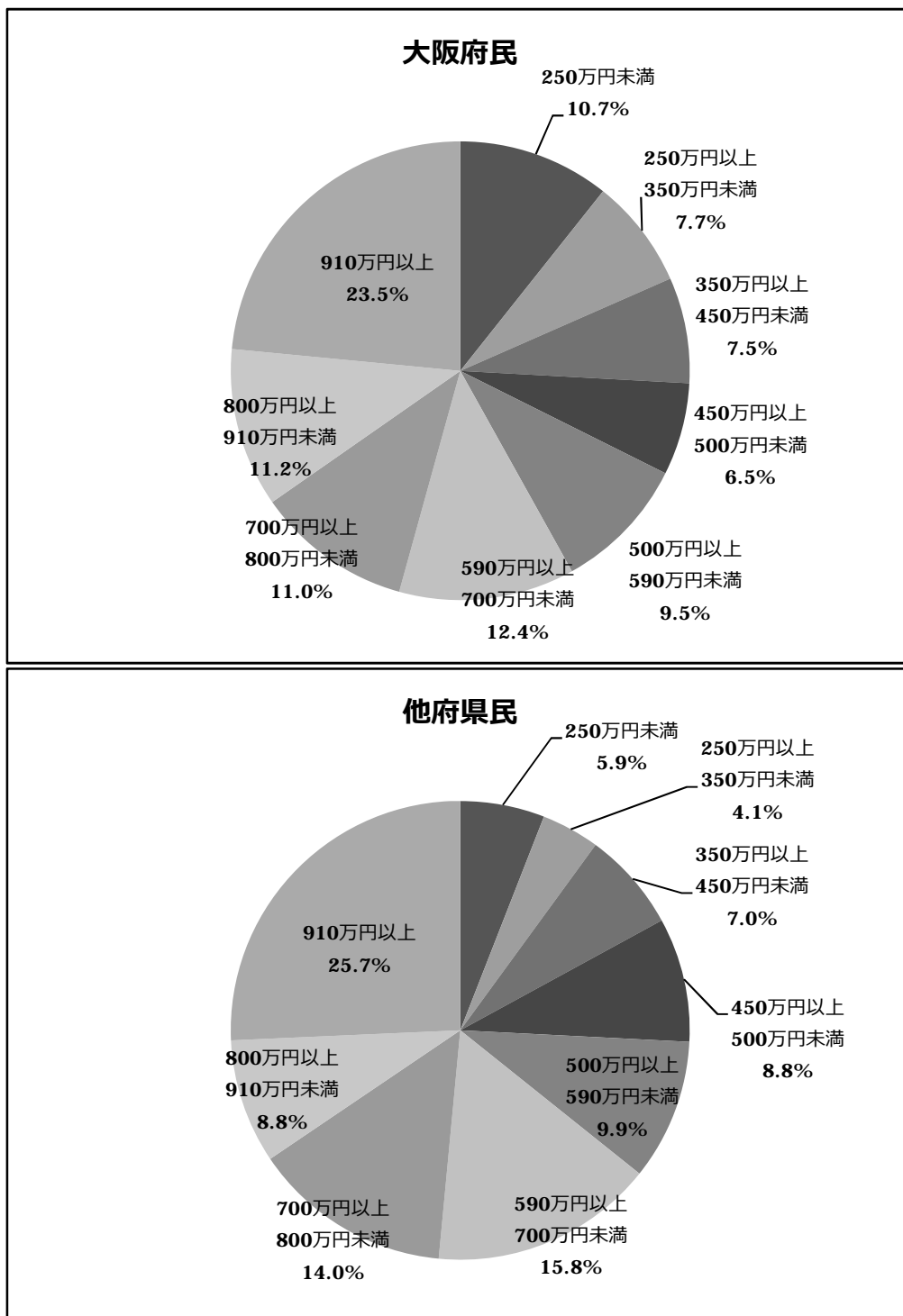
(注)「私立高校ならではの教育」とは、英語力・学力向上のための特色ある取組み、ICT環境・人工芝などの充実した施設等をいいます。



○ **私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）としては、10万円（月1万円程度）が妥当と考える割合が最も多く、全体の24.2%（R2:24.4%）となっている。**

- 私立高校ならではの教育を受けるための一定の費用負担額（年額）として、どの程度が妥当か聞いたところ、「10万円（月1万円程度）」が妥当と考える割合は、全体では**24.2%（R2:24.4%、R1:24.1%）**であった。世帯の年収で区分して見ると、年収800万円未満世帯では**26.7%（R2:27.8%、R1:27.7%）**、年収590万円未満世帯でも**26.7%（R2:26.5%、R1:27.4%）**となっており、いずれの所得区分で見ても、最も多くなっている。
- 世帯の子どもの人数（1人、2人、3人以上）で区分して見ると、いずれも「10万円（月1万円程度）」が妥当と考える割合が最も多く（子1人：**24.7%**、子2人：**24.1%**、子3人以上：**23.5%**）、次いで「費用負担なし（0円）」と考える割合が多い（子1人：**15.6%**、子2人：**14.4%**、子3人以上：**19.8%**）。

問11 あなたの世帯のおおよその年収をお尋ねします。



- **大阪府に在住している保護者のうち、世帯年収590万円未満の割合は 41.9%、世帯年収800万円未満の割合は 65.3%となっている。** ※令和2年度調査：590万円未満は44.5%、800万円未満は 67.4%
- 世帯の年収について聞いたところ、大阪府に在住している保護者については、590万円未満の割合は**41.9%**（R2:44.5%、R1:43.4%）、800万円未満の割合は**65.3%**（R2:67.4%、R1:65.9%）となっている。
- なお、他府県から大阪の私立高校に通っている世帯の年収は、590万円未満の割合は **35.7%**（R2:36.2%、R1:35.1%）、800万円未満の割合は **65.5%**（R2:59.6%、R1:64.4%）となっている。